

主 題：祈りによる癒し

聖書箇所：ヤコブの手紙 5章13－18節

「病気が癒される」、これは多くの人々にとっての魅力あることであり、また、多くの人々がこのことばにとりこにされてきました。クリスチャーの新聞を見ても、インターネットを見ても、様々な所で「癒しの集会」と名打った集会が企画され、実際に行なわれています。というのは、確かに、私たちはこのような肉体の病から解放されたい、癒されたいという気持ちをだれでも持っています。そして、そのことを多くの人たちは、今から学ぼうとしている箇所を根拠に人々に教えるのです。そこで、私たちはこのみことばをgoいっしょに学ぶことによって、神が何を教えておられるのか、たとえば、からだの癒しに関して、どのようなことを教えておられるのか、そのことを見て行きます。5：13－18を見て行くのですが、この中で一つだけ覚えていただくとしたら、それは「祈りには力がある」ということです。そのことをヤコブは繰り返し私たちに教え続けるのです。どのように力があるのでしょうか？ヤコブのメッセージを聞いて見ましょう。

☆祈りにはどのような力があるのか

1. 祈りは私たちが経験する様々な問題に勝利する力 13節

5：13に「あなたがたのうちに苦しんでいる人がいますか。その人は祈りなさい。喜んでいてる人がいますか。その人は賛美しなさい。」と、初めに「あなたがたのうちに苦しんでいる人がいますか」と呼びかけます。「苦しんでいる人」とは、苦難を経験している人、苦難を受けている人、苦難をこうむっている人、また、その中で必死になって耐えている人です。そういう人がいますか？とヤコブは呼びかけるのです。この「苦しんでいる人」ということばはパウロも使っています。Ⅱテモテ2章をみてください。3節に「キリスト・イエスのりっぱな兵士として、私と苦しみをともししてください。」とあり、また、9節には「私は、福音のために、苦しみを受け、犯罪者のようにつながれています。しかし、神のことばは、つながれてはいません。」とあります。4：5には「しかし、あなたは、どのようなばあいにも慎み、困難に耐え、伝道者として働き、自分の務めを十分に果たしなさい。」と、ここには困難に耐えるようにとあります。パウロはここでキリスト・イエスのよき兵士として様々な困難に立ち向かって行きなさいと、それに耐えなさいと言います。でも、今見て来たように、彼が言っている苦しみ、困難というのは、肉体的な苦しみだけでなく、精神的、信仰的な苦しみでもあることが分かります。パウロ自身もそれを経験していたのです。そして、ヤコブの手紙をもう一度振り返ってみると、迫害に遭遇している人々、不当な扱いを受けている人々、人々から悪意や敵意をもたれて苦しめられている人々、そういう人々を励まそうとヤコブはメッセージを送っていました。それは私たちがすでに学んだことです。ですから、肉体的にも精神的にも、信仰面でも、様々な苦しみ、問題、困難の中で「助けて！」と叫んでいる人たちが、もしあなたたちの中にいるならば、とヤコブは語るのです。もしあなたがその一人だとするなら、みことばは私たちにすばらしい朗報を知らせてくれます。つまり、あなたはその問題の中で、それに勝利できるのです。

続いて見てください。「その人は祈りなさい。」とあります。これがヤコブが、様々な苦しみや問題の中にいて勝利する秘訣だと言うのです。私たちは何か問題に会うと、すぐにだれかのところに行って、人と相談したり、その問題を忘れようとして気晴らしを求めます。疲れたからちょっと旅に出て気分が晴れたらとか、楽しいところに行ってワッと騒いだらとか、そのようなことは本当の解決はもたらしません。もし、そのようなことに問題の解決を求めようとしているなら、一時的な解決であっても、永続するものでないことを皆さんご存じです。それは神の方法ではないからです。神の方法とは「その人は祈りなさい。」です、ここに答えがあるのです。ですから、いろいろな問題や困難からの勝利というのは、まず、私たちが主の前に祈ることです。しかも、ヤコブはここで現在形の命令を与えています。祈り続けて行きなさいと、継続です。神の助けをいただきながら、神の慰めを求め続けて行きなさいと、それをヤコブは教えているのです。その結果、その人には喜びが与えられます。だから、この13節で「喜んでいてる人がいますか。」と言うのです。いろいろな問題があってもその人はその中で喜べるのです。神の前に祈ることです。そして、祈ったことによってその人は喜びを得ることができるのです。喜んでいてる人とは、問題や迫害から解放された人を指しているのではありません。そのような問題や迫害にも拘わらず喜びのある歩みができている人々のことを言っているのです。神にはそれが可能です。神はそうにしてくださいなのです。使徒の働き27：25「ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。」と、パウロがこのように励ましました。神は言われたことを実践されるから、守られるから、元気を出しなさいと。これがパウロの信仰だったのです。ヨナ

を思い出してください。神に逆らい続けたヨナに神は何をされたでしょう？大きな魚に彼を飲み込ませました。彼が神の前に砕かれて神を見上げ、神を賛美し神を礼拝したのはどこでしたか？その魚の中でした。その中で彼は「しかし、私は、感謝の声をあげて、あなたにいけにえをささげ、私の誓いを果たしましょう。救いは主のものです。」（ヨナ2：9）と言って神を称えるのです。絶望のどん底にあって、自分がこの後生かされたまま地上に吐き出されるなど考えもしないそのときに、彼は神を見上げ、神を誉め称えるのです。魚の中にいても喜びをもつことができるのです。これが神の方法なのです。私たちが正しく主の前に祈るなら、様々な問題に飲まれる必要はない、喜びをもって生きて行くことができるのです。そのように主の前に祈っているときに神は喜びを与えてくださり、喜びをもっている人に対してこのように言われるのです。

「その人は賛美しなさい。」と。神が助けや慰めを与えてくださったことに対して、私たちは神を誉め称えなさいと言われるのです。たとえ、それが与えられていないにしても、神を称えることができるのです。神の約束があるからです。信仰者はそこに立つのです。信仰者は神の約束にしっかり立つのです。そのときに私たちはやすらぎを、平安を持つのです。喜びが出てくるのです。パウロとシラスがピリピの町で投獄されていたときに、足かせをされて自由がなく、鞭打たれ、からだから血が流れているのに、彼らは何をしていたでしょう？使徒16：25「真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。」と、彼らは絶望の中で祈ったのです。すると、神は喜びをくださり、その神を賛美をもって誉め称えるのです。神はこのようなことをなさるのです。そして、実際にこのパウロやシラスのうちに、そのみわさをなされたゆえに、看守たちはそれを見て主の前にへりくだるのです。「先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか。」と言い、看守とその家族はイエス・キリストを信じるのです。

私たちクリスチャンはこのように考えなければいけません。私たちが経験する様々な問題、それがどんなものであっても、神はその機会を用いて神のみわさをなさそうとしておられるのです。だから、私たちの選択はこうです。その問題の中、絶望の中で、神に信頼します、あなたのみわざがなされますようにと希望をもって生きることです。信仰の勇者たちは皆このようでした。絶望の中で神を信頼しました。そして、神が約束されたように、神のみわざがなされ神の栄光が現わされたのです。あなたが今抱えている様々な苦しみや困難、悩みに勝利できるのです。あなたが問いかけなければいけないことは、その解決をどこに見出そうとしているかです。神を見ているか、それとも、神以外のところを見ているかです。ヤコブの教え、神の教えは「祈りなさい、神の前に出て来なさい」、そのときあなたはその問題に勝利できるのです。

2. 祈りは病に勝利する力 14－15節

ここから少し難解な箇所に入っていきます。最初にお話したように、こういうところからある人々は癒しを行なうことができるし、癒しの集会が必要であると考えられるわけでもあります。ですから、私たちはしっかりこのみことばを見て行きましょう。14節「あなたがたのうちに病氣の人がいますか。」と、このみことばを見ると誰しもこれは肉体的な病を指していると思います。しかし、この「病氣の人」ということばはもともとは「弱くなる」とか「力がない」という意味をもったことばです。そして、このことばは新約聖書の中でよく使われています。特に、18回は肉体的病、病氣を表わすことばとして使われています。しかし、同じこのことばが14回はあらゆる種類の弱さ、精神的、霊的な弱さという意味をもつことばとしても使われているのです。たとえば、Ⅱコリント11：29に「だれかが弱くて、私が弱くない、ということがあるでしょうか。だれかがつまずいていて、私の心が激しく痛まないでおられましょうか。」と、このように「弱くて」と訳されて使われているのですが、この場合、肉体的なことだけを指しているのでしょうか？どうもそれだけではないようです。「弱さ」のことです。同じⅡコリント12：10には「ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。」とあり、ここにも同じことばが出てきました。肉体的な弱さ、病気だけをパウロは言っているのでしょうか？肉体的な弱さとともに、それ以外の弱さ、精神的にとか信仰的にという、そのような弱さも含んだことばなのです。だから、ここで「あなたがたのうちに病氣の人がいますか。」とヤコブが問いかけるのですが、言い換えるならこれは、「あなたがたのうちに肉体的にも精神的にも信仰的にも弱っている人がいますか？」と言っているのです。そして、その上でヤコブはどのようにすればそういった弱さに勝利できるのか、その秘訣を教えてください。

続いて、14節には「その人は教会の長老たちを招き、」とあります。弱っている人がすることはこれです。教会の牧師たちを招きなさいと言うのです。それが私たちの責任です。では、招かれた長老、牧師たちの責任は何でしょう？次に出て来ます。「主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。」これが牧師たちのすることだと言うのです。二つのことが出て来ました。主の御名によってオリーブ油を塗るのです。もう一つは祈るのです。オリーブ油を塗ってから祈ってもらうと、このように教えるのです。さて、「主の御名によって、オリーブ油を塗る」とはどういうことでしょうか？「主の御名によって」と

ヤコブが敢えて記したというのは、長老、牧師たちがしなければならない働きは何かを教えているのです。もちろん、彼らは「主の御名によって」というとき、この働きというのは神が良しとしてくださっている、神の権威に基づくものだという事を明らかにするのですが、同時に、牧師たちはその弱っている人たちに、主を見上げなさいということを教えるのです。なぜなら、主のところにしか解決はないからです。神だけが本当の解決をくださるのです。あなたが弱ったときに、あなたに本当の励ましをくれるのは神です。あなたが辛いときにあなたの心を励ましてくれるのは神です。あなたの悩みに答えをくれるのは神です。もちろん、神以外のものもいろいろな方法で私たちの心を励まそうとします。しかし、私たちの心に神に対する喜びや感謝、賛美が生まれてくるのは神のみわざだけです。私たちの問題は神以外のところにその問題の解決を求めようとする事です。だから、牧師の務めは自分自身も含めて、しっかり神を見上げるように、そこにしか本当の解決はないことを明らかにする事です。

皆さんもよくご存じの水野源三さん、からだの自由が奪われまばたきの詩人と言われた人ですが、彼の詩を読んでいると自分の信仰が恥ずかしくなります。天にあって彼はどれほど大きな祝福をいただいているのかと思います。その彼が「主よ、みことばをください」と題した詩を書きましたが、その中にこのようなくだりがあります。「主よ、みことばをください。今日のみことばをください。そのみことばによって試練にも忍ばせてください。」と。恐らく私たちが想像する以上の困難を日ごろ経験していたでしょう。100%の人に依存しなければいけなかった、でも、その彼が言うのです。自分自身がしっかり神に信頼を置いて、このような状況の中でも耐えて行く力はどこから来るのか、それは神のおことば、神がそれを与えてくれると確信していると。果たして、私たちのうちの何人が同じことを言えるでしょう？神さま、私の忍耐はあなたから来ます、みことばをください、私はこの問題の中にあっても勝利することができます、あなたのみことばに立たせてくださいと、そのようなクリスチャンがどれほどいるでしょう？でも、事実です。神のみことばがそのことを教えてくれるのです。

そして、長老は「**主の御名によって、オリーブ油を塗る**」のです。ある人々はこれは一つの儀式であると言います。カトリック教会はこれから塗油という儀式を行なっています。病人や死を目前に迎えている人に油を塗る、そういう儀式があります。しかし、果たしてそれが聖書が教えていることかという、ヤコブはそうように教えてはいません。「オリーブ油を塗る」ということばは新約聖書にもう一箇所出て来ます。マルコの福音書6：13のところ。そこには「**悪霊を多く追い出し、大ぜいの病人に油を塗っていやした。**」とあります。このことばに関してギリシャ語の権威ロバートソン博士は「ヤコブ5：14とマルコ6：13にある『塗る』ということばは、儀式的な意味であるとは言い切れない、薬用的な治療として行なう、その意味にもとれる」と言います。非常に難解なところです。しかし、どうもここでヤコブが言わんとしていることは、儀式ということではなく薬の意味でしょう。というのは、ルカ10：33から「良きサマリヤ人」の話があります。34節に「**近寄って傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで、ほうたいをし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行き、介抱してやった。**」とあるように、傷にオリーブ油を塗ったのです。確かにこの当時、薬の代わりとしてオリーブ油が使われたのです。オリーブ油はオレイン酸を多く含み、薬用、食用、化粧用など昔から様々な用途をもっています。ユダヤ人が今でも重んじている「タルムード」の教えの中にも、幼児の病氣予防法としての最善策が次のように記されています。

「赤ん坊の適切な手当ては温かいお湯に入浴させて、油でこすってやることである」と、このようなことが今でも教えられているのです。ですから、ここで長老たちに対して、病を負っている人たちの上に、精神的にも弱っている人たちに「オリーブ油を塗ってあげなさい」というのは、その人々を薬をもって癒すという、ある意味で医師の働きもしたようです。

同時に、オリーブ油を塗るというのは一般的に行なわれていた行為です。名誉を与えるとか、元気を回復するとか、気分の清新、手入れという意味をもっていました。実際に、イエスが来られたときに女性たちが「油を注いだ」ということが記されています。客をもてなすとき、そのようなことをしたのです。このようなことを全部まとめて、ヤコブがここで命じたことは「教会員の皆さん、弱っているなら長老のところに行きなさい、長老たちよ、そのような弱っている人に油を塗って上げなさい、油を薬として、また、彼らを励ますために用いなさい」ということです。そのようなことが当時行なわれていたのです。今そのようなことをするのでしょうか？そういうことを言うてはいません。なぜなら、見て行くとオリーブ油によって癒されるのではないのです。私たちには今、オリーブ油がなくてもこのオリーブ油と同じ働きが託されているのです。先ほどの水野さんの別の詩に「その愛ゆえに」というのがあります。その中にこのように書かれたところがあります。「失望する心よ、主なるイエスさまに愛されていることを思い出せよ、その愛ゆえに希望を抱けよ」と。彼は本当に真理が分かっていたのです。心が失望するときどうすればいいのか分かっていた。神がどれほど私のことを愛してくださっているのか、神を見上げることしかない、そのときに失望は希望に変わるということを言うのです。だから、牧師たちも長老たちも、そのように弱った人に対して主を見上げなさい、そこに本当の励ましがある、主

のなさったすばらしいみわざを思い出してみなさい、そこに本当の慰めがあると、彼らを励まそうとするのです。

そして、その後このように言います。祈ってもらいなさい、「**信仰による祈りは、病む人を回復させます。**」と。この「**信仰による祈り**」、こういうことばを見ると、ある人々は一生懸命熱心にさえ祈るなら神は聞いてくださると思うかもしれませんが。ヤコブはここで、どれだけの期間、どれだけの時間祈ったから神が聞いてくれるというようなことを言っているのではありません。これは、特別な祈りです。信仰が動機づけた祈りなのです。祈るというその行為は信仰によって動機づけられたのです。信仰が「**祈ろう！**」と駆り立てるのです。その祈りがここに記されているのです。それは神のみこころがなるようにと願って祈る祈りです。私たちが祈りに関してしっかり学ばなければいけないことというのは、私たちの祈りは主のみこころを求めるものだということです。救われる前の祈りは、自分の欲しいものを手に入れるための手段でした。私たちはそこから救われたのです。救われた者として主のみこころを求めようとしています。それがここでヤコブが言わんとしていることです。主をしっかり見上げ主のみこころを求めて従って行きましょうと。そういう祈りは絶対聞かれるのです。みこころを求めた場合、必ず祈りは聞かれます。ヨハネはこのように言います。Ⅰヨハネ5：14－15「**何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。：15 私たちの願う事が神が聞いてくださると知れば、神に願ったその事は、すでにかなえられたと知るのです。**」と、みことばが教えることは神のみこころが必ずなるということです。私たちは自分の願い事が必ずなると、そう信じたいのです。神の約束は神のみこころは必ずなるです。だから、私たちが祈るときに必要なことは、私の願いではなくて、主よ、あなたのみこころのままになしてくださいです。私たちは自分の願いが神のみこころであることを期待しますが、それは間違っています。そのような祈りをしている人に必ず訪れるのは失望です。これほど熱心に祈っているのに聞かれなないと。私たちは自分の欲しいものを手に入れたから満足するのではなく、神のみこころがなされることに満足を見出すのです。だから、私たちは主のみこころを求めて行こうとするのです。

その結果どうなるのでしょうか？ヤコブは続けます。勝利が与えられます。三つのことが出て来ます。信仰による祈りは（1）病む人を回復させます。「病む人」、弱るとか疲れる人です。このことばはこの15節ともう一箇所、ヘブル人への手紙12：3に出て来ます。「**あなたがたは、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを考えなさい。それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。**」と、ここでは「**疲れ果ててしまわない**」と訳されています。確かに、このことばが一番よく使われるのは「救い」という意味においてです。しかし、今見たように、これはたましいの救いということだけを意味しているのではなく、肉体的にも精神的にも霊的にも弱ったものを助けてくださる、そのことを言っているのです。同時に（2）立たせてくださる、と言います。「**主はその人を立たせてくださいます**」。これは霊的な弱さから立ち上がることができる、肉体的に言うなら健康になるということです。神がそのように為してくさるのです。詩篇の34：19に「**正しい者の悩みは多い。しかし、主はそのすべてから彼を救い出される。**」とあるとおりです。そして三つ目に（3）罪が赦される。「**もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます**」。というのは、ある人々は病というのはみな罪と関係していると思ったのです。罪を犯している人が病気になると、そのような考えがあったのです。しかし、それは正しいことではないことは皆さんよくご存じです。しかし、罪が原因で病になった人もいますのです。だから、ヤコブはここでこのように言ったのです。その場合は、その人が神を見上げて神のみこころを求めるとき、自分の間違っていることを神に告白する、それによってその人の罪は赦されるということです。Ⅰヨハネ1：9に「**もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。**」とあるとおりです。

3. 人間関係における勝利を与える 16 a 節

16節に「**ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働く、大きな力があります。**」と、ヤコブはここでクリスチャンどうしが罪を告白し合い赦し合って行きなさいと言います。そして、互いのためにとりなし合って行きなさいと、これらは全部、現在形の命令が使われています。そのようにし続けて行きなさいと言います。教会の中でいろいろな問題が出てきた場合、人間関係で問題が出てきた場合に、もしかすると私たちは心の中に怒りをもっているかもしれない、罪をもっているかもしれません。私たちに必要なことは、そういったことが解決されて行くことです。私たちが一番しづらいことは、人に対してその人のしていることにあだこうだとはなかなか言えないものです。でも、言わないからなかなか解決できないのです。愛をもって私たちがそのように話して行くとき、お互いに祈り始めるのです。皆さんもこのようなことがあることでしょう。いやな思いをずっと抱え続けているのは、自分も喜べないし、その悪い影響が周りにも及んで行くのです。人間関係における解決は罪を告白して祈り合って行くことです。

4. 義人の祈り、勝利の祈り 16b-18節

最後に16節の後半から18節を見てください。

「いやされるためです。義人の祈りは働く、大きな力があります。：17 エリヤは、私たちと同じような人でしたが、雨が降らないように祈ると、三年六か月の間、地に雨が降りませんでした。：18 そして、再び祈ると、天は雨を降らせ、地はその実を实らせました。」。ここで言われている「いやされるためです」というのは肉体的ないやしだけを指しているのではないことは、もうすでに見てきました。霊的な意味でも、霊的回復ということを経験的に表わしているのです。そして、彼は言います。「義人の祈りは働く、大きな力がある」と。義人とはだれでしょう？ 私たちが思うのは、罪赦された人、きよめられた人、イエスを信じた人です。でも、ヤコブがここで言わんとしている「義人」とは、それ以上のことです。ヤコブはこれまでに繰り返して「みことばを実行する人になりなさい」ということを教え続けてきました。彼は1章のところから、みことばを聞くだけの者であってはならない、それを実践しなさいと教えてきました。自分を欺いてただ聞くだけの者であってはならないと彼が警告したのは、みことばをどれだけ知っているかが問題ではない、救われているか救われていないかはみことばを実践するかどうかに係るのだと言うのです。みことばを知っていてもそのみことばに従って生きていなければ、その信仰に問題があるのです。ここでヤコブが言う「義人」とは、ただ救われたというよりも、神のみこころに従って歩んでいる人、みことばに従って生きている人のことです。というのは、彼は何度も信仰の成長した人とはどういう人かを教えてくれました。その人は試練に会うときその試練を喜ぶ人であると、試練の中でも神を信頼して生きる人であると、そのように教えてくれました。そこで、ヤコブは17節からエリヤのことを話します。I列王記に出てくる話です。エリヤとアハブと、アハブに仕える多くの預言者たちのことです。義人の祈りとしてここにエリヤが記されているのです。エリヤはどういう人だったのか、ここには「**私たちと同じような人でした**」とあります。慰めのことばです。特別な人物ではなかったと言うのです。というのは、エリヤはカルメル山の上でアハブ王に仕える偶像の預言者たちを集めて、あなたたちの信じる神と私が信じる神のどちらが本物か試そうと言います。そして、天から火をもって答える神が本物の神だと。そして、このみことばが教えるエリヤの神は天から火をもって、そのいけにえを、祭壇までも焼き尽くしたのです。そうした奇蹟を行なうのです。そして、エリヤはその偶像に仕えた預言者たちを殺したのです。ここまではよかったのです。ところが、このことをアハブ王は自分の妻イゼベルに告げるのです。そうするとイゼベルが使者をエリヤのところに遣わしてこう言うのです。「**もしも私が、あすの今ごろまでに、あなたのいのちをあの人たちのひとりのいのちのようにしなかったなら（殺さなかったら）、神々がこの私を幾重にも罰せられるように。**」（I列王19：2）と、このようなことを言われたエリヤはどうしたのでしょうか？「**彼は恐れて立ち、自分のいのちを救うため立ち去った。**」（19：3）と、恐ろしくなったのです。いろいろな問題にあったときに立派であったエリヤも怖くなって恐れたのです。不安になることもあったのです。だから、ヤコブは私たちと同じような人だったと言うのです。しかし、エリヤのすごかったことは、アハブ王のところに行って「3年間雨が降らないと言いなさい」と言われたとき、まさか！とは言わず、そのことばを信じて行なったのです。3年6ヶ月経ったとき、さあ行きなさい、今度は雨が降るとその命令を受けたとき、彼は出て行ってそのメッセージをするのです。つまり、このエリヤは確かに私と同じように不安も心配も経験したのですが、彼は神のメッセージを伝えることににおいて、神を信じて行なったのです。彼は神の約束されたことは必ずなる、みこころは必ずなると信じて行なったのです。だから、神は彼を用いたのです。義人の祈りは聞かれる、なぜなら、義人、神のみことばに従って生きている人たちは、自分の欲しいものを神に求めません。彼が求めることは、主よ、あなたのみこころをなしてくださいということです。だから、その人の祈りは聞かれるのです。その祈りには力があるのです。なぜなら、神はその人を用いて神のすばらしいわざを、ちょうど、エリヤをとおしてなしたようになされるからです。エリヤは神の言われたことを信じたのです。神のみこころがなるように求めたのです。神に用いられようとし用いられたのです。私たちも同じです。神は用いてくださるのです。いろいろな面で落ちることはあるでしょう、しかし、落ち続けることはないのです。また、落ち続けてはいけないのです。私たちはそこから出て来なければいけないのです。どうすればいいのか、ヤコブは教えてくれました。「祈りなさい」と。神のくださる喜びを覚えて、約束を覚えて神に感謝しなさいと。弱っているときは教会の霊的な人を呼んでもらい、そして、いっしょに神のみこころを求めてそのみこころに沿って生きることができるよう祈ってもらいなさい、そうして歩んでいるうちに、あなたは弱った状態から立ち直って行きます。精神的にも信仰的にも、そして、肉体的にも、神が良しとされたらあなたのからだは解放されるでしょう。いやしは神だから行なうことができるのです。神は死んでいる人を生き返らせることもできるのです。神はみこころならどんな病もいやされます。私たちの問題は、どうしてもこの病を治してほしい、治してくれなければ…というところにあるのです。信仰者は主よ、みこころをなしてくださいと、その祈りは必ず聞かれます。義人はみことばに従って生

きている人です。だから、彼らはいつも自分の考えではなくて、主のみこころを求めて生きるのです。神はこの人たちを用いて素晴らしいわざをなすのです。エリヤになされたようにとみことばは教えるのです。だから、クリスチャンの皆さん、あなたは希望をもって生きることができるのです。置かれている状況がどんなに絶望的な状況でも、それは絶望に終わらないのです。そのためにはみことばが教えることを私たちが実践しているかどうかです。主を見上げなさい、どんなに素晴らしい方かしっかり覚えなさい、そして、みこころを求めて歩んで行きなさいと、そのときに神があなたをとおして働かれます。神のみわざがなされます。